

sloping dormitory



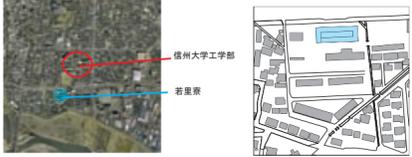
現在、寮の空間はあまりいいものではないと思われる。
暗い、汚い、古い、プライバシーがないなど、悪いイメージが多い。
しかし、寮にはすぐ周りに人がいるという大きなプラス要素がある。
寂しくない、共同生活という経験ができる。そして寮生同士は社会に出てからも続く絆で結ばれる。

「寮に住んでよかった」「寮に住みたい」

そんなふうに見えるような、寮の良さや魅力を増幅させるような新たな形態の寮を計画した。

敷地・建物概要

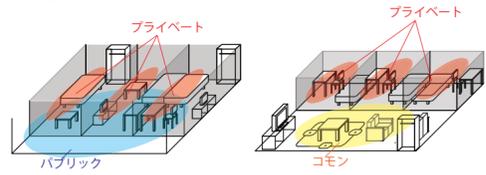
長野市街地南部に位置する信州大学工学部。
それに併設されている自治寮である若里寮。
現在は老朽化が進んでおり建て替えが望まれている。



用途地域：第一種住居地域
敷地面積：約 6900 m² (敷地全体)
建築面積：約 862.75 m²
延べ床面積：約 2005.56 m²

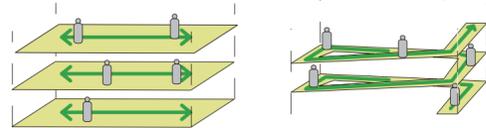
ダイアグラム

コモンスペース

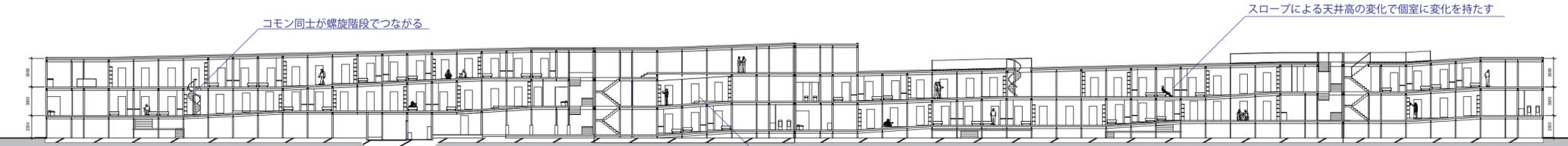
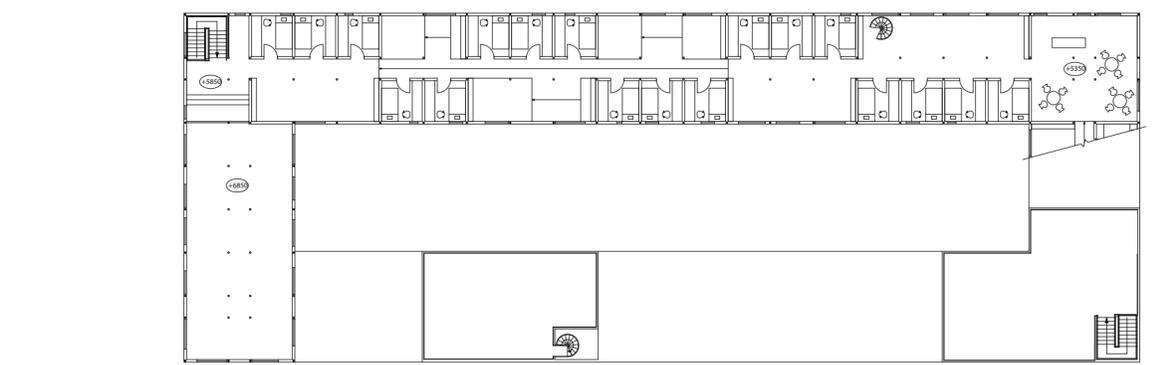


通るだけの空間であった廊下を拡張し、コモンスペースと呼ぶ空間に再編した。このコモンスペースは部屋の前面に配置され寮生が自由に使うことのできる空間である。
今まで寮では大きいとは言えない個室ですべてのことは行っていた。それによって混沌とした空間が個人の空間に入り込み不快な状態となっている。そこで個室を今より少し小さくするが、コモンスペースをとることで、個室を完全なプライベート空間として成り立たせ、問題であったプライバシー問題を解消する。さらにコモンスペースに個人のものが集まることによって、今まで以上に寮生同士のつながりが深くなると考えた。

ラセン



今まで、寮では断面的なつながりは多くの集合住宅のように考えられていなかった。
今回、寮全体をひとつながりにラセン状に配置し全体としてつながりのある空間を目指した。さらに、ある一定の傾斜で配置するのではなくスロープ部とフラット部を織り交ぜることにより、いまままで単一的な空間であった寮に天井高の変化を与え一定の広さの中にも多様な空間を与える。



連続断面図

0 1 3 6 10

